



# APAYeNEWS

アジア・太平洋Y M C A同盟月報 No.04/2010年6月

翻訳協力：山崎往夫

## 1. アジア・太平洋Y M C A同盟ユースカウンシル

アジア太平洋地域の18のYMCAからおよそ60人のユースリーダー、ボランティアとスタッフが香港で7月14-16日に開催されるアジア・太平洋Y M C A同盟ユースカウンシルに登録しています。この第1回ユースカウンシルは、ユースワークのY M C Aモデルの事例研究などY M C A運動におけるユースの役割を取り上げます。

参加Y M C Aは、バングラデシュ、カンボジア、東ティモール、香港、インド、インドネシア、日本、韓国、マカオ、マレーシア、ミャンマー、ネパール、シンガポール、スリランカ、台湾、タイとベトナムを含みます。オーストラリアとニュージーランド参加者を加え、20のYMCAがユースカウンシルの後に開催される国際ショナル・ユース・フォーラムに参加します。およそ280名以上のユースがアジア・太平洋Y M C A同盟から（内200は香港の両Y M C Aから）、そして、50名は続く世界Y M C A大会まで参加します。支援して下さるすべてのYMCA、ワイズメンズクラブの皆さまに感謝します。私たちをY M C Aのユース・リーダーシップ、参加と関わりの次の10年間に移らせてください。

## 2. 世界同盟総会2010にて特別基金の募金

第17回世界Y M C A大会が、近づいて来ました。ほぼ1,000人のスタッフ、リーダー及びボランティア、世界中から多くのユースが参加します。私たちはユースの参加とリーダーシップのための機会と場を提供する方法を探し続けます。魅力的な国際交流や、コミュニティのためには資金を必要とします。このため、世界会議の間に「基金のための飲料」を販売する基金作りのイベントをします。ここ香港地区での多くのY s Men sクラブが、ウ・カイ・シャでのフェローシップ・ファンド・ナイトのために幾らかをすでに寄付しました。

私たちのこの「基金のための飲料」に参加し支援したい方は、私たちのクーポン100HKDを買うことができます。これは指定のアジア・太平洋Y M C A同盟ブース/店で寄付と同額の瓶詰め飲料と交換できます。これは、ディナータイムの後のみ開きます。大部分はY s Men sクラブと幾つかのY M C Aのシニアの友人、サポーターがユースの参加とリーダーシップ発展と並ぶアジア・太平洋Y M C A同盟のプロジェクトのために、プログラム終了後USD10,000位寄付したいとしています。

世界Y M C A大会でユースに対してのこの特別な募金へのあなたの支援と参加を心より感謝いたします。

## 3. マカオ・トレーニングは、地球市民育成に関する知識を深めました！



Skills workshop on curriculum development

5月25-30日、マカオのY M C Aは、サオ・ホセ・コンベンション・センターでの最初の地球市民育成トレーナーズ・トレーニング（TOT）をホストしていただきました。日本、バングラデシュ、香港、インド、マカオ、マレーシアフィリピン、スリランカ、そして、タイなどから参加がありました。

トレーナーとリソース・パーソンたちは、連続講義、対話的なワークショップを通して私たちに異なる方法で地球市民育成のための知識などを与えてくれました。セッションとワークショップは、とても意味があり、参加者をやる気にさせてくれました。そしてそれらは、地球市民育成についてのその人の知識を深める進歩的な方法で紹介されました。

韓国光州Y M C Aの総主事ナム・ブー・ウオン氏は、グローバルセッションと地球市民に関して非常に実際的な理解を示しました。

「世界が100人の村だったら」という、私たちの到達する向こうに地球市民として心を留めねばならないということの意味する双方向性のセッションは、日本から開発教育協会事務局の中村絵乃氏によって推進され、地球市民の鍵となる要素に関する刺激的なワークショップを提供しました。

また、フィールドワークでは、Y M C Aライ・チェン・センター、カリタス・マカオ、そして移民労働者支援を行うUGAMMなどでした。

韓国Y M C A全国連盟ソン・ジン・ホ氏は地球市民育成シミュレーションゲームを用いて分析を行いました。3日目は、平行したセッションでのスキルトレーニング・ワークショップを行いました。異なる形の方法論とアプローチは、夫々の分野で専門家である以下のY M C Aスタッフによって提供されました。



Exposure analysis using simulation games

(1) 香港Y M C Aのエリック・アウ・ユン氏とシウ・ロウ氏によるグループで働くためのリーダーシップ役割と技術 (2) マカオY M C Aのチェック・チン・カオ氏による多文化学習と社会的包含 (3) フィリピンY M C Aのパブリート・タブコル氏による演劇と劇場を使って地球市民教育を進め、教える創造的な方法 (4) 日本Y M C A同盟の横山由利亜氏による地球市民育成カリキュラム発展とマネジメント (5) 香港の進歩と民族アジア・センターのジェームズ・タン氏による支持とキャンペーンでした。

アジア・太平洋Y M C A同盟総主事の山田公平氏は、アジア・太平洋Y M C A同盟人材動員に関して進行中のプログラムと行動について話しました。トレーニング終了後、私たちは自身の背景での行動計画を共有しました。それはY M C Aコースワークとコミュニティ開発プログラムで地球市民教育を集積することに特別な焦点を当てています。

各々の国のプレゼンテーションの後、彼または彼女のコメントと提案を誰もが表すことができました。

山田総主事の閉会の言葉は、地球市民育成が運動とミッションの将来としてY M C Aでの若い人々を育てるすばらしいツールであることを強調しました。トレーニングは、成果がありました。私たちは、夫々が自身のY M C A運動の援助支持により行動計画を成功裡に実行することを楽しみにしています。

アジア・太平洋Y M C A同盟によって発表されたように、マレーシアのペナンで2011年9月開催の第18回アジア・太平洋Y M C A同盟総会は、私たち地球市民育成プログラムの評価のための時とお祝いです。ポスト・コース・トレーニングは、フォローアップとモニタリングとしても行われるかもしれません。



(フィリピンY M C A同盟ユース・ボランティアKristina Velez氏によるレポート)

#### 4. 2010年 平和学校

去る2月1日インド、バンガロールのヴィスタール・キャンパスにアジアの異なる地域と異なる

宗教的な背景の19人のユースが到着しました。彼らは、アジア・太平洋Y M C A同盟とアジア・キリスト教協議会の共同のプログラムである異宗派間の協力フォーラム（ICF）により運営される平和学校（SOP）に参加しました。

最初彼らは、自身の信仰と同じ人々だけと交流する傾向がありました。バングラデシュ、ビルマ、カンボジア、インドネシア、ネパール、フィリピン、タイとヴェトナムからの彼らを結びつける唯一のものは、彼らが20才と30才の間で、夫々の国の草の根のレベルで働いていたということでした。



けれども14週間プログラムのコースの中で、変化が始まりました。彼らは、もはや参加者をフィリピンからのイスラム教徒やバングラデシュからのキリスト教徒として見なくなり、互いを平和と人権をもたらし、貧困を根絶し、また、人権を推進し保護するために社会で共に働く若者として見るようになりました。要するに、彼らの国の積極的な変化に向かって働くことは、彼ら全員が共有した共通のゴールでした。そして、彼らは友情の絆と互いに対する思いやりを深めました。

洞察、そして、SOPの精神は、SOP 2010のブログ<http://sop2010.wordpress.com/>の参加者のエッセイ、写真などでよくわかります。5月1日に、SOP参加者は、JustPeaceのフェスティバルで正義のために葛藤する人々を祝うヴィスタール・キャンパスに約1,500~2,000人と共に活動的な役割を担いました。SOP参加者とインドからフェスティバルに出席している人々は、音楽、ダンス、そして、食物を通して彼らの異なる文化を分かち合いました。いろいろな問題に関する情報は、多数のビデオによって伝えられました。SOP参加者の何人かは、彼らの国で直面する問題、例えばビルマ、フィリピンのミンダナオ、及び南タイでの暴力と人権侵害について討議グループを立ち上げました。

5月14日のSOPの終了で、ICFネットワークは、現在12のアジア諸国で68人から構成されています。SOPに出席するプロセスの中で、参加者自身は変わりました。今や仕事は同様の働き、彼らの社会を変えるという方向へ働くことです。

（APAY-ICFコーディネーター、ブルース・ヴァン・ボーリス氏によるレポート）

## 5. 第5回東ティモール・ユースキャンプ 持続可能な開発と環境

東ティモールY M C Aを強化する私たちの継続的な努力の一部として、2010年8月1-9日に第5回東ティモールY M C Aユース・キャンプを実施します。今までのキャンプは、「平和」をテーマに行っていましたが、2010年度は「持続可能な開発と環境」がテーマです。独立後、まさに発展の途中にある東ティモールにて、現地のユースと海外のユースが集まり、環境を考慮した持続可能な開発について各国の経験を分かち合いながら考えます。また、東ティモールY M C Aのコミュニティでの活動を学び、現地の子どもたちとの交流も行います。

\* 日本からは6人のユース、スタッフが参加予定です。

## 6. ジェンダー・ワークショップ 持続可能な開発に焦点

9月24-28日、ジェンダー委員会が持続可能な発展のための経済的な公正に関するワークショップを計画しており、インドY M C A同盟の支援でPune Y M C Aがホストとなります。今年のワークショップでは、マイクロファイナンスと企業発展に関して女性に独立心と自助決断力を与えることに広げようとしています。1つある協議の焦点は、「マイクロ企業プログラムに関連して女性と男性の間の平等性はどうか？」です。このワークショップは、私たちがジェンダー認識を基にして私たちの能力を高めているように、一団の選ばれたY M C A女性/男性リーダーのための研修プログラムです。

詳細は各国同盟にお問合せください

## 7. Y M C A スタッフとエキュメニカル NGO のための平和学校

Y M C A スタッフ及び異宗派間の協力フォーラムとアジア・キリスト教協議会の代表のための平和学校が、10月22日 11月11日にスリランカ、カトナヤケのY M C A インターナショナル・ホテルで行われます。平和学校は、Y M C A スタッフが平和と異宗派間の行動に関して研修を受けられるユニークな機会を提供します。

プログラムの詳細は、各国同盟にお問合せください。

## 8. アジア・太平洋 Y M C A 同盟第 28 回アドヴァンス・スタディー・プログラム

第28回アドヴァンス・スタディー・プログラム (ASP) は香港のウ・カイ・シャで11月14日から12月12日まで予定されています。この地域の年次プログラムは変革のためのY M C A 運動を強化する指導者養成を焦点としています。学習の主要な4つの要素は、現代神学上の展望、現実理解、影響と反応、Y M C A 運動 (21世紀におけるY M C A のミッションと社会的関連) とプログラム理解の反応を含みます。運動強化、ワークショップに対する特別な関心、展示とケース研究などがカリキュラムの部分です。私たちは、15人以上のY M C A スタッフが今年のASPに参加することを願っています。

登録料は250USDで、参加費は1,500USDです。出願締め切り日は、8月15日です。

プログラムの詳細は、地域のウェブサイトからダウンロードすることができます。また各同盟事務局からも入手可能です。

## 9. 近況

< 気候変動に関する働き : Y M C A グリーン・チーム >

アジア・太平洋 Y M C A 同盟グリーン・チーム

アジア・太平洋 Y M C A 同盟グリーン・チームの初のskypeでの会議は、去る5月10日に行われ、国家/ローカル・レベルでY M C A グリーン・チームが機能するためのガイドラインを作りました。グリーン・チームは、自らの二酸化炭素排出量を減らすことに関するY M C A の働きを援助するためにオンライン二酸化炭素排出計算機を開発している途上です。

オーストラリア

ベンディゴのYサービスクラブは、2kWのPV (電流写真) 太陽電気制御盤システムの購入のための基金をベンディゴ地域のY M C A に寄付しました。システムは、光熱費で年間600ドル、そして最初の25年間でおよそ100トンのGHG放出を減らすことでY M C A を救います。システムは、連邦政府によっても部分的に資金供給されました。Y M C A はローカルの持続性グループとパートナーとなり、システムの活動に関して、教育的なセミナーを提供します。そして、スタッフとボランティアは、使用しないときに明りと機器のスイッチを切ることによって協力することができます。行動の変化によりかなりのパーセンテージの消費を減らさなければなりません。ベンディゴYサービスクラブも、蛍光灯をLEDチューブに交換するための購入資金をベンディゴ地域Y M C A に寄付しました。

香港

香港のY M C A 理事会は、グリーン・チームに理事会として彼らのユース代表と共に参加する決意をしました。それは、ユースたちのチームの主なグループが1人のスタッフによって支えられているからです。

スリランカ



スリランカY M C Aのエコロジーと災害管理委員会は、二酸化炭素排出を減らす計画を作成するために働くグリーン・チームの役割、生態系バランス、そして、環境問題を引き継ぎました。国のY M C Aもまた会員Y M C Aのグリーン・チームの形成に努力しています。

#### タイ

チェンマイY M C Aは、家庭、学校、その他で電気代を減らすキャンペーンを始め、それに対する最高のパフォーマンス賞を設けました。チェンマイY M C Aのアプローチは、ただY M C Aのみの二酸化炭素排出を制限するだけでなく、一般のコミュニティにつながっています。それは『温暖化防止ネットワーク』、『車のない日』キャンペーン、セミナー開催、教育プログラムその他に結びついています。Y M C Aホテルは、環境保護の方針と取り組みをもつグリーンホテルになる過程にあるところです。

#### < 地球的オルタナティブ・ツーリズム・ネットワーク (GATN) >

##### ネパール

ネパールY M C Aは、アジア・太平洋Y M C A同盟パートナーシップ・プロジェクトの基に日本Y M C A同盟と協力してオルタナティブ・ツーリズム・プロジェクトを始めています。プロジェクトの一部として、ネパールY M C Aは、オルタナティブ・ツーリズムのための運動を始めます。ネパールでオルタナティブ・ツーリズム・グループを設立し、オルタナティブ・ツーリズム・パッケージを開発して、25人のユースの失業者をオルタナティブ・ツアーガイドとして訓練しています。

\* 日本からはこのプロジェクトの支援のために3千ドルを送金しました

## 10. 各国同盟からのニュース

### フィリピンY M C AのRYLTI ~ユース・ディヴェロップメントのための能力向上



16日間のリーダーシップ・トレーニング・プログラム、リーザル・ユース・リーダーシップ・トレーニング・インスティテュート(RYLTI)は、フィリピンY M C Aのユース・ディヴェロップメントのための効果的な能力形成となるでしょう。今年のRYLTIは、去る5月15-31日19人の若い大学生リーダー(ユニメンバー)を集め行われましたが、いろいろな地元のY M C Aを代表して何人かのユースの理事がこれに参加しました。誠実、平和、正義、愛国心や正直さと言った

価値に基づいて、このトレーニング・プログラムは変革的リーダーとなる若い学生を養成することをねらいとしています。現代ユース問題、地球市民、ボランティア、コミュニティー・ディベロップメントに関する学びと協議がなされました。統治危機のために1995年に止められたインスティテュートは、APAY-MAP(現在APP=APAYパートナーシッププロジェクト)の支援で2007年に復活しました。それは、多くの著名なリーダー、そして、Y M C Aコミュニティでのスタッフ、政府サービス、企業体、そして、多くのNGOを生みだしました。

(ジュード・ミゲリト・デ・ララ氏、RYLTI 2009によるレポート)

### 香港中華Y M C Aで「地球市民となろう」がキックオフ

地球市民育成を進めるために、香港中華Y M C Aで15~25歳の若者のための運動「地球市民となろう」キャンペーンが始まりました。このキャンペーンは、参加者に4つの主要な地球規模問題の課題である持続性と貧困、平和、文化的多様性についての知識を身につけさせようとするものです。キャンペーンの勝者または勝利を得たチームには、上限HK\$100,000の奨励金が与えられ、地球規模課題を更に



探求する海外での6ヶ月間滞在を体験します。旅行の後、勝者または勝者のチームは彼らの経験を分かち合い、また、他の地元の若者への地球市民の概念を伝える助けをします。上述のキャンペーンのための式典と記者会見のキックオフは、2010年5月15日に行われました。それは運営委員長アンディ・ツァング氏（香港警察副コミッショナー）、また、香港の南アフリカ、韓国、ドイツ、そして、アメリカ合衆国の総領事と共に賛同を得ました。

詳細は、<http://www.ymca.org.hk>で見ることができます。

（香港中華YMCA エリック・ウォン氏によるレポート）

### 第7回インド国内女性大会

ローカル・ホストとしてのアイザウルYMCAと共にインドYMCA同盟は、3日間の第7回インドYMCA国内女性大会を5月6-10日に開催しました。ミゾラムの首相ライ・タンアウラ氏は、彼の就任演説で国での多くのポストが女性によって高い地位を占めていることを強調し、インドでの女性の権利拡大の新しい時代を示していると述べました。大会のテーマは、『不公平終焉：平等の権利、機会均等 すべての人のための進歩』で、3つの副題について国中から選ばれた経験豊かなリソース・パーソンたちによって語られました。基調演説は、インドYMCAの女性の権利拡大とジェンダー検討委員会委員長A・V・W・トーマス博士によってなされました。その大会は、5つの宣言をもって閉会しました。それは、金融とミッションに根ざすプログラムに関して独立独歩を狙うためにYMCA女性フォーラムを召集する、その上に、YMCA女性フォーラム・メンバーの範囲内でe ネットワークを始めることを勧告するなど、他の多くのことが含まれています。

インドYMCA同盟 メディアとコミュニケーションニュース主事、アンジャン・マッカジー氏による全文レポートは、[www.ymca.int](http://www.ymca.int)からダウンロードできます

### 第2回日本YMCA地球市民育成プロジェクト

地球市民権育成プロジェクトは、2009年に始めた日本YMCAのプロジェクトのうちの1つでした。来る8月20-26日、中国、韓国、マカオ、台湾と香港中華の各YMCAから参加者が、「第2回日本YMCA地球市民育成プロジェクト」に出席するため東山荘に集います。プレゼンテーション、協議、ワークショップ、フィールド・スタディーなどを行います。そして、参加者は、年間プログラムの中で実行される行動計画を発表します。

（日本YMCA同盟 榎田真季氏によるレポート）

## 11. 特別記事～創立55年を祝う台南YMCAについて学ぶ！

台湾の台南YMCAは、長い間社会教育団体として知られていました、そして、現在、社会福祉または社会奉仕団体として知られてもいます。この学びと5月1日の55年の祝賀について報告します。

台南YMCAは、彼らの様々なプログラムによってユースと高齢者にサービスを提供しています。高齢者の要請を受けて、YMCAは新しいかたちの高齢者ホームを建設しました。

安全と同時に革新的特徴を備えており、また、将来にはもう一つの高齢者ホーム或いはデイ・サービスセンターの計画が上がっています。高齢者人口の問題は、台湾政府によってよく知られており、彼らはより多くの資材をYMCAに提供して来ました。

都市部の教会の関わりは、台南YMCAが成功したことのうちの1つでもあります。毎年、13-18歳のユース1,000人が、一緒に伝道キャンプへ参加します。60以上の教会がこのプログラムと関係しています。そして、教会はYMCAに協力的でYMCAを通してそのユースに対するミッションとビジョンを理解しています。

プログラムのシフトは、財政的に、そして、人的資源面において、より多くの支持を求めている、より多くの人々に仕えるために起こり、また、コミュニティのより広いスケールのプロジェ

クトを可能にします。ボランティア活動、コミュニティと個人からの寄付、理事会の支援と、都市の教会の間でのより強いネットワークは、台南YMCAの新しい傾向を示しています。このように、キリスト教への献身、YMCAが持つボランタリー・スピリット（奉仕の精神）を感じるのです。

（アジア・太平洋YMCA同盟山田公平総主事からのレポート）

## 12. 世界YMCA同盟 最新の動き

「いま、地球市民として生きるために」は、第17回世界YMCA大会のテーマです。それはこの7月19-24日香港で124以上の国と地域からYMCAリーダー、スタッフとボランティアが参加します。

香港特別行政区の最高責任者ドナルド・ツァング氏は、世界YMCA大会の開会式の司会を務め、国連のパートナーシップ幹部職員のアミル・A・ドーサル氏が基調講演をします。

国際ユース・フォーラム（IYF）に対する準備も進んでいます。フォーラムは、地球市民とそれが意味する若い人々として、異なった、また、創造的な方法でミレニアム・ディヴェロップメント・ゴール（MDGs）にたいする応答を探究するものです。チャリティ音楽コンサートが、7月18日の夕方に、ビクトリア公園であります。

## 13. YMCAユースライター求む！

今年6月号から「ユース・イン・フォーカス」という特別なコラムを設けて、ユースに関する色々な事例紹介をします。毎月25日が締め切りです。

## 14. イベント/会議予告

日付	イベント	会場
7月14-16日	APAY ユースカウンスル	香港
7月16-19日	WAY 国際ユース・フォーラム	香港
7月19-25日	世界YMCA大会	香港
8月1-9日	第5回東ティモールユース・キャンプ	東ティモール
9月24-28日	ジェンダー・ワークショップ	インド
10月19-24日	第3回アジア太平洋ユニY地域会議	パギオ市(フィリピン)
10月22日 - 11月11日	平和学校	スリランカ
11月14日 - 12月12日	第28回アドヴァンス・スタディー・プログラム	香港

## 15. 総主事デスクより

### 地球市民育成プログラム

2006年に行われた世界同盟総会（南アフリカ）で決議された地球市民育成計画は、ユースの教育ということでもあり、同時にYMCAが地球市民としての役割を担っていくという意思の表明でもあったように思います。その翌年のアジア太平洋YMCA同盟総会でも地球市民育成計画を今後4カ年計画の中心に据えようと決議されました。その後、2008年に3回の会議（そのうち2回は日本で）が行われ、地球市民教育のカリキュラムも出来上がりました。さらに世界同盟がイギリスで行った会議で地域同盟の役割は、地球市民育成のための資料の提供と指導者のトレーニングであり、実際の育成は各地のYMCAで行われるというものでした。

この動きに沿って、APAYでは今年3月の常務委員会でGATN（Golden記念日信託財産）から助成

金で、5月25-30日のトレーナートレーニングの実施を決めました。今回のトレーニングには、10カ国から25人が参加してマカオYMCAの協力で実行されました。参加して気づいたことなどを紹介します。

一つは、今回参加した国の中ですでに日本、韓国、香港、フィリピン、タイ、インド、スリランカでは地球市民教育が行われており、マカオ、マレーシア、バングラデシュでは今回の参加がその始まりになるという状況です。それぞれ国の状況でやり方、考え方が違いますが、今回の会合で共通の認識が生み出されたと思います。

二つ目に、3月のユース委員の活躍でも感じたことですが、ユースの自覚や能力の高さに驚かされました。今回の参加者の半数は30歳未満で、そのうち学生は5人でした。発言の内容もそうですが、みんなの前で発表する姿勢に驚かされたということです。地球市民教育は必ずそれぞれの地域における指導者育成につながるという確信のようなものを感じました。

三つ目は、今回の参加者が、その国の同盟やローカルYMCAで今回の結果を発表しますが、その国のなかで企画実施のチームを作り、地球市民育成教育が各地で実際に行われるように組織的バックアップが必要になるということです。

最後に、地球市民教育は将来のリーダーシップ育成につながることは確かですが、現実の社会変化に添った形でYMCAが活発に動き出すようになることになり、YMCA運動そのものの転換を呼び起こすことにもなるのではと思います。

アジア・太平洋同盟 総主事 山田公平

主任主事 Cristina A. Dalope & Jose Varghese

---

#### アジア・太平洋YMCA同盟

23 Waterloo Road, 6<sup>th</sup> floor, Kowloon, Hong Kong  
tel. 852-2780 8347, 2770 3168, 2783 3058; fax 852- 2385 4692  
e-mail - office@asiapacificymca.org

---